くぐつね山の不思議な夏

原作／斉藤洋
『遠く不思議な夏』
（偕成社刊）より
脚色／松下哲子
演出／ふじたあさや
音楽／川崎絵都夫
振付／酒井麻也子
美術／池田ともゆき
衣裳／生田志織
照明／坂本義美
音響／山北史郎

制作／上保節子

おはなし

小学4年生の夏休み、おじいちゃんの家があるくぐつね山で過ごすことになったぼく。

東京から列車で二時間、そこからバスで一時間。バス停でぼくを待ってたのは、〝きっつぁん〟というおじさんだった。きっつぁんは、ぼくをリヤカーに乗せ、おじいちゃん家まで連れていく。

「おめえいくつになった？」

「10歳。」

「じゃあ、まだ見えるかもしれねえな。」

「何が見えるの？」

「さあな。」

謎のおじさん〝きっつぁん〟と、話好きなおじいちゃん。

キツネに化かされたり、お地蔵様が魚を釣ったり、それほんと？

あずきあらいに神隠し。それって作り話？

そして、くぐつね山で友だちになったテルジ。

「自分のことは、誰にも言うな。」って、テルジって何者？

これは、ぼくが経験した『くぐつね山の不思議な夏』のおはなし。

上演にあたって（演出の言葉より　ふじたあさや）

昔、この国には、さまざまな不思議がありました。キツネに化かされた人もいっぱいいましたし、人魂を見たという話も、数多くありました。そんなもの、あるはずはない。あると思うなら、科学的に証明しろ――と、学校では教えるようになりましたし、幽霊の話なんかしようものなら、「迷信を信じるのか」と馬鹿にされるようになりました。そうです。そんなもの、あるはずはありません。しかし、「ない」と言い切ってしまっとき、私たちは、何か大切なものを忘れてしまったのではないか？ 人が人であり、ここが日本であるために必要な、何か大切なものを――しみじみとそんな気にさせてくれる、それが斉藤洋さんの「遠く不思議な夏」です。

劇団創立７５年。浜組、松組、風組の３班に分かれ、全国の小・中学校の演劇教室を中心に活動しています。

公益社団法人　教育演劇研究協会　劇団たんぽぽ
〒435-0015 静岡県浜松市東区子安町323-3　TEL053-461-5395　FAX053-461-6378